

## 1. 環境アセスメントとは

開発援助における環境アセスメント制度は、まずアメリカの国際開発庁 (USAID) が国家環境政策法 (NEPA) の改正 (1981) の際、開発援助プロジェクトに対しても環境アセスメントを義務付けたのが最初である。本書では、今後とも途上国の開発援助に対する環境アセスメント制度において先導的な役割を演じていくものと考えられる世界銀行やアジア開発銀行などの国際金融機関の手法をベースとする環境アセスメント制度を紹介する。

### 目的

環境アセスメントの目的は、新規のプロジェクトやプログラム、計画及び政策に関する決定を下した結果生じるであろう事柄についての情報を意思決定者に提供することである。環境アセスメントは、潜在的に重要な事柄に関する情報をインプットした上で決定を導き出すとともに、提案者と一般住民双方の良好な利益に結びつかなければならない。また、環境アセスメントは、プロジェクトが環境にもたらす影響に関する専門的な評価を系統的な方法で示し、予測される影響の重要性を把握して提示し、その結果、修正またはミティゲーションするための範囲を提示する技法であり、決定が下される以前に関連主務省庁にそのプロジェクトがもたらす結果を適切に評価させるためのものである。環境配慮に対して責任を有するプロジェクト開発者と行政機関は、起こり得る影響を初期段階で見極め、それによりプロジェクト計画と意思決定の両方の質を改善するために、環境アセスメント技法を役立てることができる。環境アセスメント制度の目的とする具体的内容は次の通りである。

- i) 案件の重大な環境影響を意思決定者と住民に公開する。
- ii) 環境被害を軽減・回避する方法を決定する。
- iii) 実行可能な代替案やミティゲーション対策の実施を要求することで環境への悪影響を防ぐ。
- iv) 重大な環境影響のあるプロジェクトに対する許認可理由を公衆に公開する。
- v) 関係省庁間の調整を促進する。
- vi) 住民参加を強化する。

## 意義

環境アセスメントは、重大な環境影響をもたらすプロジェクト活動の実施を妨げるための手続きではない。むしろプロジェクトがもたらす環境への影響を認識した上でプロジェクト活動を許可することである。環境アセスメントには政治的配慮が働くことがある。多くの場面において経済、社会及び政治的要素が環境より重要になってしまうことは避けられないことである。だからこそミティゲーション対策が環境アセスメントの中心となるのである。ミティゲーション対策がなされなかったプロジェクトに比べれば、悪影響が緩和されたプロジェクトの提案を決定することや正当とみることの方がはるかに良い選択である。環境アセスメントの意義として次の事項が挙げられる。

- 1) 技術報告書の枠を超えて、より大きな目的である生活の環境面の質を保護し、改善するための手段である。
- 2) 主として人間の活動が自然及び社会環境に与える影響を解明・評価するための手順である。また、環境アセスメントは単なる特定の分析方法や技法ではなく、ある問題に適する数多くのアプローチを試みるものである。
- 3) 環境アセスメントとは科学そのものではないが、数多くの科学を学際的に統合し、実社会における事象、関係を科学的に評価するものである。
- 4) プロジェクトに伴う追加や付加として扱うべきものではなく、プロジェクト計画の不可分な一部と見なすべきものである。環境アセスメントのための費用は適切な計画の一部として計上すべきであり、その他の雑費と見るべきではない。
- 5) 環境アセスメントは決定を下すものではなく、政策決定と意思決定において検討されるべきものであり、最終的な選択に反映されるべきものである。従って、意思決定過程の一部でなければならない。

環境アセスメントでは、重要なあるいは本質的な問題に焦点を合わせ、政策決定の根拠となりうるだけの重要性と予測の妥当性を十分に説明しなければならない。